

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890800055		
法人名	医療法人 竜仁会		
事業所名	グループホームもみじ館 いちょうユニット		
所在地	茨城県龍ヶ崎市寺後3937-10		
自己評価作成日	2021年10月20日	評価結果市町村受理日	2022年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JirgvsyoCd=0890800055-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2021年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもとで、安心・安全な生活を大切に、尊厳ある毎日を自分らしく送っていただけるよう支援しています。また、地域とのつながりや家族との信頼関係を大切にしています。職員一人ひとりが専門職として日々学びサービスの向上に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

安心・安全な生活支援と利用者の尊厳を大切に利用者本位のケアに努めている。母体の医療機関や系列の特養・老健・有料老人ホーム・デイサービスとの連携が図られ、感染対策や災害時、利用者・家族・職員の安心に繋がっている。感染予防マニュアルを作成し、必要物品の整備やガウンテクニック、ゾーニングのシュミレーションを実施し、全職員で共有している。外出支援に制約がある中で、施設内でのレクや体操、家事を重視し、喜びややりがいに繋げている。家族には、毎月、写真を添えて利用者の様子を知らせている。現在は感染予防対策をとりながら、予約制での面会が可能となったので、利用者・家族の不安は軽減されるだろう。***新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの入口や食堂等に理念をを掲示している。事業所目標は理念を基に作成し実践につなげている。	ユニット入りロヤリビングに理念を掲示し、職員の意識付けを図っている。年度初めに理念を振り返る。事業所目標①安心・安全な介護②待機者の確保・適切な事業運営を掲げ、実践に繋げている。現在は、特に感染対策に重点を置き、普段の生活から気を付けているとの事。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止対策のため、地域行事への参加や外出を含めた交流を持つ事が困難であった。自治会へは議事録を持参し、情報の共有に努めている。	以前は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしたり、地域イベントに参加していたが、コロナ禍の現在、交流は困難である。自治会長に運営推進会議の議事録を届けて事業所の取り組みを伝えたり、情報交換をする。地域住民から散歩時に声をかけても良いか尋ねられ、是非お願いしますと伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の専門学生の実習受け入れを行い、認知症高齢者への理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議は市への相談の上でちゅうし、代わりに議事の送付を行っている。返信いただいた要望について出来る事を実践しサービスの向上を図っている。	2ヶ月毎に、生活状況・事業予定・報告・アクシデント報告・対策・研修内容等を書面で報告している。行政からはコロナ感染予防に対する注意喚起が多い。行政・民生委員・区長・全家族には議事録を送付し、返信で頂いた意見等をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為、会議をどのように開催すればよいか相談させていただいた。また、運営上の不明点などを相談させていただいている。	コロナ禍ではあるが、担当課に出向き、アドバイスを受けている。専門学校の実習生を受け入れた。中学生の体験学習受け入れは中止となっている。こども110番は法人が設置している。見守り支援事業所として登録している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	もみじ館他部署と共同で身体拘束廃止委員会を行っており、アンケート調査やeラーニングなどを用いた勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、委員会を開催。身体拘束廃止委員会が主となってデイサービスや他部署と合同の勉強会を実施している。アンケートの実施や、eラーニングで職員の意識付けと勉強会を開催している。安全面から、状況に応じてセンサーを設置している利用者があり、家族に説明して同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	もみじ館他部署と共同で虐待防止・人権擁護委員会を行っており、アンケート調査や勉強会に参加し、理解を深め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に時間を作っていただき、利用者様やご家族に説明を行い、疑問点等について話し合い理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話連絡時にご意見を頂戴し、内外共に情報共有し運営に反映している。施設の担当者並びに市町村相談窓口を家族に伝えている。	事業所の担当窓口・第三者機関窓口を明示している。利用者からの食事や様々な要望については家族とその都度相談しながら対応している。家族には面会時や電話連絡時に意見を聞くようにしている。面会の要望が多いが、コロナ禍の為、オンラインや窓越しでの面会をお願いしている。毎月、写真を添えて利用者の様子や体調を伝えている。遠方の家族にLINEで写真を送り、喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事前に意見書を提出してもらい、ユニット・全体ミーティングで検討している他、適宜コミュニケーションを図り、運営に反映させている。	運営に関する情報は事前に報告している。日頃から現場の声に耳を傾け、検討している。ユニット・全体ミーティングでは事前に意見等を提出してもらい検討している。管理者は面談を行い、職員の目標・評価についての確認と、意見の吸い上げに努めている。キャリアアップに向けた内・外研修(eラーニング)や資格取得を推進している。受講後は報告書提出とミーティングで報告し全職員で共有している。今回の外部評価にあたり、自己評価は話し合いや担当制をとって作成しており、振り返りが出来たとのこと。管理者やケアマネ、職員は何でも言い合える良い関係との事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入しており、本人のレベルに合わせた目標設定・自己評価を行い、総合評価にて昇給等に反映されている。また、面談を行い働きやすい職場環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリア開発室や介護教育委員会による研修計画に沿って研修の機会を確保したり、外部研修の推進や委員会による研修機会がある他、介護福祉士資格習得の推進を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、他事業所との交流は行えていないが法人内の連携会議に参加し、サービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声に耳を傾け安心できる関係づくりを心掛け、これまでの慣れ親しんだ生活を継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人と面談・調査を行い十分に要望を聞いている。面会の度に、生活の様子をお伝えしながら、家族の話も傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を十分にアセスメントし、ご本人・ご家族にとってより良いサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のそばに寄り添い、コミュニケーションを図りながら出来る事、やりたい事を引き出し、日々の家事や楽しみを共に行い過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の生活状況を手紙で報告し、利用者様からのご家族への要望などもこまめに連絡している。また、新型コロナウイルス感染対策の観点から、LINEを使用したオンライン面会や窓越し面会を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染対策のため直接の面会を中止し、LINEを使用したオンライン面会や窓越し面会を行っている。オンライン面会では、今まで難しかった遠方の家族、親戚等と面会を行う事もできている。	オンライン面会や手紙、電話で遠方の親族等とも馴染みの関係継続に努めている。現在(12月)は年賀状を家族に出す準備をしていた。窓越しに面会を実施していたが、制限が解除されたので、現在は感染予防対策をしながら予約制で直接面会が可能となった。下肢筋力維持の歩行訓練として別ユニットに行き、挨拶を交わす場面もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が気持ちよく交流できるよう席配置を工夫し、交流が苦手な方や上手く話ができない方には職員が間に入り、寄り添いながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日頃より、何でも相談していただける関係作りに努めている。今後、契約が終了しても継続して支援できる体制づくりに努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様には直接今後の暮らし方の意向を確認している。困難な方には、ご家族様からの情報や日々のかかわりの中から意向を把握し、本人本位の対応が出来るよう努めている。	一日の流れは概ね決まっているが、利用者のスタイルに合わせた時間の流れとなっている。食器拭き・掃除・洗濯たたみ・お米研ぎ・枕カバー取り換え等、得意な家事は自ら進んで取り組んでくれる。困難な場合は家族から生活習慣等を聞き、表情・様子から利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活やサービス状況は、担当ケアマネージャーやご家族より情報を提供していただき把握している。入居後は新たな情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当職員の気づきや個人の生活記録、健康記録により現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット別に3ヶ月毎にカンファレンス、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族から意向を聞き、利用者が目標達成できるプランを作成して、3ヶ月毎にカンファレンス・モニタリングを実施し、現状に即したプランを作成している。作成後は家族に説明して同意を得ている。職員は全利用者のケアプランを把握できるよう努めている。24時間シート・生活暮らし記録に、具体的な行動・状態・支援を記録し一日の様子が分かりやすく色分けして記入され、全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートを活用し、24時間の記録をこまめに行っている。日誌には特に重要な申し送りを記載し、気づきや医療的な記録に関してはマーカーを引き、全職員が共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対策の観点から家族との直接面会を中止しているため、LINEを使用したオンライン面会や窓越し面会を実施している。また、ご家族へ連絡した際などに要望を聞き、サービスへの要望を取り入れられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	専門学校の実習生などを積極的に受け入れている。地域行事へは感染防止のため参加は見送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を大切に、かかりつけ医による適切な医療を受けられるように支援している。	母体の医療機関から月2回の訪問診療(家族連絡、受診情報に記録)と週1回の訪看サービス(伝達内容、要望を記録)が入り、体調管理に努めている。専門医受診は職員が付き添い、受診後に家族に報告し記録に残している。家族と病院で合流することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師へ日々の体調変化等について状況報告を行うなど連携図り、適切に受診等の対応をとれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関との情報交換を適切に行い、経過についても地域連携室と連絡を取っている。退院時には注意事項等の確認等を行い、帰所に適切なケアが行われるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に緊急や容態が悪化した場合の説明をさせていただき、状態が変化した場合にはご家族と話し合いを行い、医療関係者と共に支援に取り組んでいる。また、看取りの準備を進めていく上で、訪問看護と連携を図り、看取りについての勉強会を実施した。	基本、看取りは実施しないことを契約時に説明している。必要に応じて医師から家族に説明があり、今後に向けた方針を基に医療関係者とチームで取り組んでいる。前回の評価を受け、看取り要請が出た場合の対応として、訪看と連携を図り勉強会を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理に関する研修を年2回行って予防に取り組み、緊急マニュアルに沿って急変時や事故発生時について職員へ周知している。AEDの訓練は入職時と年1回実施しているが、今年度は実施形態を検討中。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	河川氾濫時の避難を想定した会議、避難訓練を実施。避難時に備え3日分の衣類等を詰めた非常時持ち出しバッグ、備品をまとめた持ち出しケースを常備している。また、法人の防災会議を通して連携を図り、病院との合同大規模災害想定避難訓練を実施した。	風水害・地震の災害別マニュアルを作成し関連施設と協力関係が出来ている。老健への避難を想定し、着替え等の持ち出し用品の見直しや役割分担、連絡体制を整えた。停電時の必要品は調整中。震度5強クラス地震発生時は安全が確保できた職員は事業所に出社することとなっている。病院と合同で、大規模災害想定避難訓練を実施した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、利用者様へ丁寧に対応するよう心掛けている。個人情報の保護に関しては、ミーティング等で周知し、実施している。	オンラインで接遇に関する研修を実施し、利用者に対する尊厳の気持ちを大切にし、日々のケアに努めている。個人情報保護は職員にも周知している。肖像権を含め、情報開示関連の同意書を取り交わしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にしながら、馴染みの関係を築いている。本人が思いや希望を訴えた際は、話をゆっくりと聞く時間をもち、希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室に仏壇や位牌を安置し、手を合わせる時間を持てるよう配慮するなど、利用者様が一人ひとりのペースに合わせ、可能な限り希望に沿えるよう支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は利用者様が季節に合ったものを自身で選べるよう支援している。理美容はコロナ禍の為、不定期ではあるが希望を確認し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回のお楽しみメニューや手作りおやつ等、利用者様の希望を叶えられるよう工夫している。利用者様には食事の準備、食器拭き等をお願いしている。	配食業者から届く冷凍食品を湯煎して提供している。月2回のお楽しみメニューは利用者の希望を聞き、サンドウィッチやラーメン、鰻やご当地コロッケ、お刺身等をテイクアウトしたり、寒天ゼリーやたこ焼き風ホットケーキを作って提供している。利用者は米研ぎや食器拭き等を楽しみながら行っている。職員は別のテーブルで利用者の食欲や誤嚥の見守り支援を行っている。食べる事の大切さから、食前の口腔体操と食後の歯磨きで口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は制限食や食事形態、好みなど一人ひとりに合わせて対応している。水分量は入居後1週間はチェックを行い、1000ml以下の方は飲み物の工夫をしながら、継続的にチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前と毎食後に口腔ケアを行っており、本人の状態に応じて支援し、清潔保持を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、状態に応じて声掛け、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を継続できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへ誘導する。自立の利用者は排泄後に確認している。声掛け誘導・利用者の意欲からパッドの大きさが小さくなり、改善した方もいる。夜間帯はポータブルトイレを利用する方もいる。水分摂取・乳酸飲料・体操等で便秘予防対策を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や牛乳・ヤクルトの提供、1日2回体操などを行い、便秘予防を行っている。また、排泄パターンを把握し、ここに応じた支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表に沿って声掛けを行い、体調や気分に合わせて、柔軟に入浴日の変更等を行っている。季節に合わせて入浴剤を使用するなど、楽しむことが出来るよう工夫している。	週2回の入浴支援となっているが、汚染時や希望が出た場合は対応している。拒否があった場合は無理強いせず、ケースbyケースで対応している。入浴剤やゆず湯等の行事湯を実施。個人毎にお湯を交換し、湯船に浸かって気持ちが良い入浴を実施している。皮膚感染予防対策も実施されている。着替えの準備は利用者自身・もしくは職員が利用者を確認しながら揃えている。巻き爪は訪看や皮膚科で対応してもらう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの物を持参していただき、状態に応じて休息の声掛けをしたり、本人の生活習慣に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服チェック表を作成し、2人体制で内服チェックを行い、誤薬の無いように努めている。内服の留意点などもスタッフに説明し、利用者様の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、テーブル拭きや食器拭き、米研ぎなど出来る事を行っていただいている。季節に応じた行事を企画し、季節を感じられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策の為、敷地内や近隣への散歩のみ行っている。	コロナ感染予防対策の為、外出支援は控えているが、敷地内や近隣の散歩は継続している。窓越しに日差しを浴びている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物や本人が希望する物は職員が買い物に行き、代金を施設で一時的に立替え、支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙や電話を掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節の壁飾りを製作して掲示している他、各居室の入口に季節の花(造花)を配して季節を感じられるよう工夫している。	季節の壁飾り(クリスマス・ペストリー・雪の結晶のつるし飾り)を飾り、見当識に配慮している。定期的な換気と加湿器設置でコロナ感染予防対策を実施している。隣ユニットへの往来は自由で、利用者同士会話を楽しんでいる。トイレは矢印の表示で誘導し、お風呂場もわかりやすくなっている。	

茨城県 グループホームもみじ館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で会話ができるよう、座席の工夫をしたり、一人でもゆったりと過ごせるよう工夫している。隣ユニットとの行き来も自由に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ寝具等をお持ちいただいている他、ご家族の写真等を飾るなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	居室入り口に名前と番号、季節の花等を飾り、自室だという意識付けを行っている。名前の上に避難確認プレートを設置している。洗面台・ベッド・タンスが備えられ、仏壇や遺影、テレビやテーブル、イスやハンガーラック、ヘッドホン等を配置している。ぬいぐるみ・習字・家族の写真が飾られ、一日の予定を掲示する等、安心できる居心地のよい居室となっている。掃除は主に職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を揚げ、必要に応じて場所や大きさを変更している。トイレには目印なるものを貼り、場所や水の流し方が分かるように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームもみじ館

目標達成計画

作成年月日 : 2022年3月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33 (12)	今後看取りを行う検討をしている為、勉強会は実施しているが、実際はどのような流れで動くのか等の不安があり、マニュアル作成が課題となっている。	牛尾病院訪問看護ステーションや多職種と連携を図り、マニュアルを作成する。	牛尾病院訪問介護ステーションと連携を図り、流れなどをフローチャート等でわかりやすくまとめ、マニュアルとして作成する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。